

教学の手引き

2011

英米文学専攻

English and American Literature Major

文学部

Table of Contents

英米文学専攻

English and American Literature Major

I 英米文学専攻 教学紹介

① 教育理念・目標	3
② 履修の仕方	3
③ 履修モデル	5
④ キャリア形成と専攻での学び	8
⑤ 科目概要	9
⑥ 卒業論文（4回生小集団科目）について	11
⑦ 研究入門（1回生小集団科目）について	20

II 科目一覧と履修方法

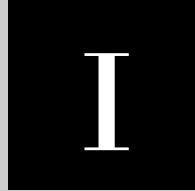
① 科目一覧	28
② 履修方法	28

「教学の手引き」の使い方

「教学の手引き」は、専攻・プログラムにおける皆さんの学びの指針となるものです。毎年配布される履修要項とあわせて、履修に役立ててください。

この「教学の手引き」は、皆さんが卒業するまで使用するものです。再配布はしませんので、大切に保管してください。

記載内容に変更・追加がある場合は文学部ホームページ（URL：http://www.ritsumeijp/lt/lt07_j.html）や掲示で随時発表しますので、定期的に確認をしてください。



英米文学専攻 教学紹介

1 教学理念・目標

英米文学専攻は、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどの英語圏の文学（詩、小説、演劇など）や英語学を中心に研究し、それらの国々（地域）の、英語で表現された文化、人間と社会のあり方、あるいは英語への理解を深めることをその基本的な目的としています。

そのためには、「読む」「書く」「聞く」「話す」といった英語の基本的な学力を身につけることが何より肝要です。とりわけ読解力は、学習・研究の基礎であり、重要です。しっかりとした英語力があれば、翻訳者や日本語といった媒体を通さずに、作品や作家に直接アプローチすることができます。どんなに優れた翻訳も、一つの近似値でしかありません。まず、文学作品などを生で味わうことが重要です。

さらに、さまざまな文献・テキストに接して、英語圏の国民とその文学・言語の特性や歴史についての基礎知識を身につけるとともに、各人の感受性、論理的思考力、表現力を高めます。高度なコミュニケーション能力を身につけることは社会的な要請であり、そのような能力を身につけることが自分自身を高めることになるのです。また文学・言語の基礎的な理論や批評書、論文を読むことは、自己の文学観や言語観を養います。

以上の学習・研究により、卒業後、各人がどのような進路に進むにしろ、広い視野と優れたコミュニケーション能力を発揮して活躍できることでしょう。

- (1)知識を身に付け理解を深める
- (2)英語力、研究能力を養う
- (3)思考力、表現能力をつける
- (4)広い視野を持ち、伝達能力を磨く

2 履修の仕方

英米文学専攻での履修の「軸」をなすのは、「研究入門」、「基礎講読」、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」という回生別小集団クラスです。1回生次の「研究入門」と2回生次の「基礎講読」では、ひとりひとりの自主的・意欲的学習姿勢と共同学習、グループ研究を通じて、専門研究の基礎的方法を学びます。

さらに専攻のコア科目である、「英米文学概論Ⅰ・Ⅱ」、「英語表現概論」、「英語学概論」のうち、最低2科目を1回生次に履修登録し、専門領域についての基礎的な知識を修得します。また1回生次後期には、「英書講読 (Intermediate)」を通して、英語テキストの本格的な読解をおこないます。2回生次には、同じくコア科目であり、もう少し専門的である、「英文学史Ⅰ・Ⅱ」と「米文学史Ⅰ・Ⅱ」を履修することが望まれます。さらに「英書講読 (Advanced)」を2科目と、「英作文法」2科目と「英会話」をそれぞれ履修することを通じて、英語力の向上をめざします。その他、テーマを絞った「英米文学特殊講義」、「英語表現特殊講義」を受講して、専門知識の幅を広げてください。

もちろん低回生次には、これらの科目以外に、外国語科目の学習によって実践的な語学力を高め、教養科目や人文科学総合講座の科目を通じて、各人の視野を広げてください。とくに人文総合科学インスティテュート各プログラムの諸科目のうち、専攻に隣接する分野の講義や講読を、履修モデルを参考にして積極的に受講してみることも有意義であると思われます。

英米文学専攻では、2004年度から人文学科の発足を機にカリキュラムを充実させました。具体的には、イギリスやアメリカの演劇や映像、オーラルヒストリー、英語学を中心とした英語表現の分野を充実させましたが、これらも英語で表現される文学や文化の一環ですので、英米文学専攻の基本的な教学理念に変わりはありません。したがって旧カリキュラムの学生も一部の科目を除いて新カリキュラムの授業を自由に受講することができます。

新カリキュラムでは、3回生進級時に「英語文学プログラム」もしくは「英語表現プログラム」を選択することとなりますが、どちらのプログラムを選ぶにせよ、履修する科目に制限はありませんし、3回生次の「演習Ⅰ」や4回生次の「演習Ⅱ」もそれで区別されるものでもありません。これらのプログラムは英米文学専攻でどのような

分野を主として研究するかを確認するためのもので、早期の研究目標の確立という意味をもっています。2回生次にはこのことを意識して、いろいろな科目を履修し、各自の研究テーマを考える必要があります。また、講義科目のうちのコア科目の履修は、それぞれの開講回生に制限するものではありません。たとえば2回生以降でも未履修の概論科目を、3回生以降に「英文学史」や「米文学史」を履修することもできます。

3回生次の「演習Ⅰ」では、文学の領域、英語表現・英語学などの分野を考慮して編成されますので、ゼミ説明会で配布される演習要項を参考に、各自が専門とするゼミを選択します。3回生のゼミでは低回生以上に専門的な研究を主体的におこなうことが求められますし、教員と学生が学問を通して交流を深めるよう努める必要があります。研究テーマに関する他専攻・プログラムの演習も積極的に履修してください。そして「演習Ⅰ」等で学んだことを基礎として、各自が自分の研究テーマを遅くとも3回生終了時には確定し、4回生次の「演習Ⅱ」で、4年間の総括としての卒業論文作成に取り組むことになります。

ただし文学部では、テーマリサーチ型ゼミナールの受講も可能です。3回生ゼミ選択の際には、英米文学専攻とテーマリサーチ型のゼミのどちらを選択するかは、自分が何を研究したいのかをよく考えたうえで決定してください。

3 履修モデル

モデル1：英語文学プログラム

科目区分 学年	必修科目	登録必修科目	専攻科目	教養科目・他専攻・ 人文科学総合講座等の科目	資格課程・副専攻等
1 回 生	研究入門 (選必) 英米文学概論 I (選必) 英語学概論	リテラシー入門 (教養)		言語学 I (人文) ヨーロッパ史概論 (人文) アメリカ史概論 (人文) 比較文化講義 I (学際) 教養ゼミナール (教養)	
	英書講読 (Intermediate)	(選必) 英米文学概論 II (選必) 英語表現概論		言語学 II (人文) 英語文学 (人文) 比較文化講義 II (学際) 教養ゼミナール (教養)	
2 回 生	英作文法 I 英書講読 (Advanced)	基礎講読 (選必) 英文学史 I (選必) 米文学史 I	英会話 I 特殊講義 I～IV	美と芸術の論理 (教養) 映像と表現 (教養) 文学と社会 (教養) 音声学 I (人文) 神話学 I (人文) 西洋思想 I (人文) 西洋史概説 I～V (西史) 西洋近代美術史 (学際)	アカデミック・ライティング (人文) 学校インタナショナル (イノベーション) 北米地域研究概論 I (エリアスタディ) 学校教育研究 (イノベーション)
	英作文法 II 英書講読 (Advanced)	(選必) 英文学史 II (選必) 米文学史 II	英会話 II 特殊講義 V～VIII	ラテン語 I (人文) 音声学 II (人文) 神話学 II (人文) 西洋思想 II (人文) ラテン語 II (人文)	北米地域研究概論 II (エリアスタディ)
3 回 生	英書講読 (Advanced)	演習 I	特殊講義 I～IV 英文実習 翻訳実習	キリスト教思想 I (人文) アジアの文学 (人文) 比較文学論 I (学際) ヨーロッパ文学史 (学際)	教職指導演習 I (英語) (イノベーション)
	英書講読 (Advanced)		特殊講義 V～VIII 英文実習 翻訳実習	キリスト教思想 II (人文) 比較文学論 II (学際)	教職指導演習 II (英語) (イノベーション)
4 回 生	[英語文学 P・表現 P 対応] 演習 II 卒業論文				

このモデルのテーマ：英語文学プログラム「英語圏の文学作品を原書で読んで英語力を養うとともに、作品・作家研究の成果を今日的テーマにつなげる。」

凡例：教養科目 (教養)；人文科学総合講座 (人文)；

注) ① これは履修モデルです。この通り履修する必要はありませんし、この通り履修しても全ての必要単位を修得できるわけではありません。

また、表にある科目の履修セメスターも、必ずしも配当セメスター通りとは限りませんので注意してください。皆さんの関心に応じ、他の科目も自由に履修してください。

② 必修・登録必修・選択登録必修 (選必と表示) の区別については (P.28) を参照してください。

③ [表現 P 対応] [表現 P 対応・英語学] [英語文学 P・表現 P 対応] はシラバスの科目がどのプログラムに対応しているかを示しています。これは科目選択を制限するものではなく、選択の際に参考となるように表示しているにすぎません。なお何も表記のない科目は自由に選択できます。

モデル2：英語表現プログラム

学年	科目区分	必修科目	登録必修科目	専攻科目	教養科目・他専攻・人文科学総合講座等の科目	資格課程・副専攻等
1 回 生		研究入門 (選必) 英米文学概論 I (選必) 英語概論	リテラシー入門 (教養)		言語学 I (人文) 映像と表現 (教養) 比較文化講義 I (学際) 民族と文明の美術史 (学際) 教養ゼミナール (教養)	
		英書講読 (Intermediate)	(選必) 英米文学概論 II (選必) 英語表現概論		言語学 II (人文) 英語文学 (人文) 比較文化講義 II (学際) 教養ゼミナール (教養)	
2 回 生		英作文法 I [表現 P 対応] 英書講読 (Advanced)	基礎講読 (選必) 英文学史 I (選必) 米文学史 I	英会話 I [表現 P 対応] 特殊講義 I～IV	美と芸術の論理 (教養) 視覚芸術 (人文) 文学と社会 (教養) 音声学 I (人文) 神話学 I (人文) 西洋思想 I (人文) 西洋史概説 I～V (西史) 西洋近代美術史 (学際) 芸術と社会 (人文)	アカデミック・ライティング (人文) 学校インターンシップ (イノベーション) 学校教育研究 (イノベーション)
		英作文法 II [表現 P 対応] 英書講読 (Advanced)	(選必) 英文学史 II (選必) 米文学史 II	英会話 II [表現 P 対応] 特殊講義 V～Ⅷ	音声学 II (人文) 神話学 II (人文) 西洋思想 II (人文)	
3 回 生		[表現 P 対応] 英書講読 (Advanced)	[表現 P 対応] 演習 I	[表現 P 対応] 特殊講義 I～IV 英文美習 翻訳実習	キリスト教思想 I (人文) 美学・芸術社会学 (学際) 比較文学論 I (学際)	教科指導演習 I (英語) (イノベーション)
		[表現 P 対応] 英書講読 (Advanced)		[表現 P 対応] 特殊講義 V～Ⅷ 英文美習 翻訳実習	キリスト教思想 II (人文) 比較文学論 II (学際)	教科指導演習 II (英語) (イノベーション)
4 回 生		[英語文学 P・表現 P 対応] 演習 II 卒業論文				

このモデルのテーマ：英語表現プログラム「英語で書かれた様々なテキストを扱い、英語圏文化を多様な角度から分析する力を養う。」

凡例：教養科目 (教養)；人文科学総合講座 (人文)；

- 注) ① これは履修モデルです。この通り履修する必要はありませんし、この通り履修しても全ての必要単位を修得できるわけではありません。また、表にある科目の履修セメスターも、必ずしも配当セメスター通りとは限りませんので注意してください。皆さんの関心に応じ、他の科目も自由に履修してください。
- ② 必修、登録必修、選択登録必修 (選必と表示) の区別については (P.28) を参照してください。
- ③ [表現 P 対応] [表現 P 対応・英語学] [英語文学 P・表現 P 対応] はシラバスの科目がどのプログラムに対応しているかを示しています。これは科目選択を制限するものではなく、選択の際に参考となるように表示しているにすぎません。なお何も表記のない科目は自由に選択できます。

モデル3：英語表現プログラム・英語学

科目区分 学年	必修科目	登録必修科目	専攻科目	教養科目・他専攻・ 人文科学総合講座等の科目	資格課程・副専攻等
1 回 生	英書講読 (Intermediate)	研究入門 (選必) 英米文学概論 I (選必) 英語学概論 (選必) 英米文学概論 II (選必) 英語表現概論	リテラシー入門 (教養)	論理と思考 (教養) 社会学入門 (教養) 情報科学 (教養) 言語学 I (人文) 教養ゼミナール (教養) 言語学 II (人文) 教養ゼミナール (教養)	
2 回 生	英作文法 I [表現 P 対応・英語学] 英書 講読 (Advanced)	基礎講読 (選必) 英文学史 I (選必) 米文学史 I	英会話 I 表現特殊講義 I	社会言語学 I (人文) 音声学 I (人文) ラテン語 I (人文) ギリシヤ語 I (人文) 言語コミュニケーション論 (人文) 論理学概論 I (哲学) 世界の言語 (学際)	アカデミック・ライティング (人文) 学校インタナショナル (イノベーション) 学校教育研究 (イノベーション)
3 回 生	[表現 P 対応・英語学] 英書 講読 (Advanced) [表現 P 対応・英語学] 英書 講読 (Advanced)	(選必) 英文学史 II (選必) 米文学史 II	英会話 II 表現特殊講義 II	社会言語学 II (人文) 音声学 II (人文) ラテン語 II (人文) ギリシヤ語 II (人文) 論理学概論 II (哲学)	教科指導演習 I (英語) (イノベーション)
4 回 生	[英語文学 P・表現 P 対応・ 英語学] 演習 II 卒業論文	[表現 P 対応・英語学] 演習 I	表現特殊講義 I 英文実習 翻訳実習 表現特殊講義 II 英文実習 翻訳実習	学習・記憶心理学 (心理) 言語・思考心理学 (心理)	教科指導演習 II (英語) (イノベーション)

このモデルのテーマ：英語表現プログラム・英語学「英語の文構造や意味を科学的、客観的に分析し、人間言語の仕組みや文法原理を解明する。」

凡例：教養科目 (教養)；人文科学総合講座 (人文)；

- 注) ① これは履修モデルです。この通り履修する必要はありませんし、この通り履修しても全ての必要単位を修得できるわけではありません。また、表にある科目の履修セメスターも、必ずしも配当セメスター通りとは限りませんので注意してください。皆さんの関心に応じ、他の科目も自由に履修してください。
- ② 必修、登録必修、選択登録必修 (選必と表示) の区別については (P.28) を参照してください。
- ③ [表現 P 対応] [表現 P 対応・英語学] [英語文学 P・表現 P 対応] はシラバスの科目がどのプログラムに対応しているかを示しています。これは科目選択を制限するものではなく、選択の際に参考となるように表示しているにすぎません。なお何も表記のない科目は自由に選択できます。

4 キャリア形成と専攻での学び

英米文学専攻で身につけた素養や経験を踏まえ、卒業後に想定されるキャリア別に、どのような学習や活動が必要かを述べます。これは、卒業論文で扱う研究テーマをタイプ別に分類し、その分野で推奨する履修科目を挙げた「3.履修モデル」とは目的が異なっていますので、混同しないようにしてください。

- ① 一般企業：当専攻でもっとも一般的な選択肢だと思われます。英語力を向上させ、幅広い知識を習得することを目的とする学生が想定されます。具体的には、英語原書、とくに英語文学作品や関係資料をしっかりと読解できる力と論理的な思考力を培って、卒業論文として説得力のある文章を書くことを最終目的とします。ここで培った能力は社会生活を営むうえでもっとも有益です。専攻科目のみならず、他専攻・インスティテュート開講科目の履修が望ましいですが、英語力を生かした仕事に就くことを望む者、あるいは海外留学をめざす者は、英会話・英文実習の履修も望まれます。

就職先は一般企業、公務員などさまざまなものが想定されます。ホテル、旅行者などのサービス業、商社、出版社、メーカー、医療関係などに卒業生が多数進出しています。ホテル旅行関連なら地理学専攻の科目（地誌（世界）I・II、ツーリズム論など）や世界各地域の歴史を講義する科目や、エクステンションセンターの旅行業講座などを、学内で開かれているさまざまなプログラムや制度を利用して目標達成に向けて努力してください（エクステンションセンターには公務員、貿易実務などの講座もあります）。

留学を希望する者は、留学の目的をよく考慮して履修の仕方を考えてください。

- ② 教員：専攻科目の教職科目（英会話や英米文学概論I・IIなど）の履修が必要で、イノベーション副専攻の「アドヴァンスト・コース」などの受講を通じ、英語力の向上に努めてください。さらに近年、教員採用の際、大学院修士課程（博士課程前期課程）修了で得ることのできる専修免許を重視するケースも多いため、大学院進学も視野に入れるべきでしょう。海外の大学のTESOL（Teaching English to Speakers of Other Languages）コースへの進歩も、教職に就くまでの準備のための選択肢です。教職志望者は、教育委員会との協定にもとづく学校ボランティアやイノベーション副専攻「学校教育臨床コース」など、さまざまなプログラムに積極的に参加すべきです。本学には教職支援センター（至徳館1F）があるので、大いに利用してください。

- ③ 翻訳家：翻訳実習のみならず、英文実習、英会話、英語文学関係の科目の履修が望ましいでしょう。英書講読（英米文学講読）は、クラスに空きがあれば卒業に必要な単位数以上の受講も可能ですので、できる限り多く受講して英語文献の読書量を増やすべきです。また学部と大学院との合同授業という、レベルの高い講読科目が開講されているので、可能なら受講してください。

- ④ 研究職（進学）：博士課程に進学して、英語による論文執筆がもとめられますので、高水準の英語での卒業論文執筆を目指すべきです。進学先は文学研究科英米文学専修のみならず、総合人文学専修、先端総合学術研究科や、欧米の大学院進学が考えられます。言語学を研究したい人は、本学の言語教育情報研究科（言語情報コミュニケーションコース）も進学先として挙げられます。

登録必修である概論科目や英文学史・米文学史などはもちろんのこと、特殊講義や演習I・II、そして英語で卒論を執筆するために、論文作成を目的とした英文実習を履修してください。また学部と大学院の合同授業でレベルの高い講読を受講してください。さらに幅広い知識習得のため、西洋史専攻など他専攻・プログラムの科目の履修が求められます。たとえば英米文学専修を目指す者でも、学際プログラム言語文化領域開講科目、例えばヨーロッパ文学史など近接する地域の文学を学ぶことは必要です。

また後期課程進学まで目指すなら、ドイツ語もしくはフランス語が必要となるので、それらの学習を怠ってはなりません。さらに条件がととのえば、海外留学も視野に入れてください。

5 科目概要

1. 小集団科目

「英米文学研究入門」(コア科目、1回生のみ、登録必修)

英米文学研究のための基礎的な力を養成します。英語テキストをどう読み、どう分析するかを、各自が実際のテキストの例より学び、必要な各分野に関する基礎知識の修得を通して、英語文学あるいは英語学への導入をはかります。授業は担当教員の講義とともに、発表・討論を主として進めます。初歩的な研究レポートの書き方も指導します。

「英米文学基礎講読」(コア科目、2回生のみ、登録必修)

「研究入門」で培った英米文学研究のための基礎的な力をさらに向上させます。個人あるいはグループによる発表・討論によって、各自が英語テキストの読みをさらに深め、作品分析の方法を学び、批評能力を高めます。研究トピックの選び方、多様なアプローチ、研究レポートの書き方などについても紹介します。

「英米文学演習Ⅰ」(コア科目、3回生のみ、テーマリサーチ型ゼミナールのどちらかを登録必修)

英語文学のジャンル、および英語表現・英語学の分野を考慮して演習クラスを編成しますので、各自が専門にしようとする分野のクラスを選択し、その分野について専門的に学習します。授業は、テキストの精読と個人あるいはグループによる研究発表を中心にすすめます。自分で英語テキストや批評書を読み、担当教員による助言・指導を受け、卒業論文のテーマを具体化することをめざします。

「テーマリサーチ型ゼミナール」

テーマリサーチ型ゼミナールは、2003年度からスタートした、文学部が擁する従来の枠組みでは捉えきれない人文学のあらたな分野やテーマ、アプローチを、ゼミ形式で大胆に実践していく、まったく新しい形態のゼミナールです。21世紀の「知」のグローバル化を目指して、人文学に共通する普遍的なテーマ、特定地域を多面的にリサーチしうるテーマ、現在進行形のタイムリーなテーマ、新世紀の社会に直結する実践、実習的テーマなど、現代社会が人文学に求める革新的テーマを設定します。また、テーマリサーチ型ゼミナールでは革新的・斬新なテーマを追求するためにも、常にゼミテーマを見つめ直しています。3回生のゼミ選択の際には、卒業時(4回生)にどのようなテーマで研究をし、卒業論文執筆をしたいかといったことを考え、ゼミを選択します。その際、自専攻のゼミ、テーマリサーチ型ゼミナールといった選択肢の中で自分に適するゼミを選んでください。テーマリサーチ型ゼミナールでどのようなテーマのゼミが開講されているのかはシラバスで確認をしてください。以下に2011年度、3回生ゼミのいくつかを記しますので是非参考にしてください。

2011年度3回生ゼミテーマ

例)「説き方の表現と教育心理学」、「中国映画から現代中国の文化を考える」、「THEMES IN ASIAN STUDIES」

「英米文学演習Ⅱ」(コア科目、4回生以上、必修)

卒業論文のテーマによって、クラスを選択し、演習Ⅰで培った学力を土台に、さらに専門的知識を高め、中間発表を経て、指導教員の助言を得ながら、卒業論文を作成する科目です。

2. 講義科目

(1) 1回生以上(いずれか2科目選択、登録必修)

「英米文学概論Ⅰ・Ⅱ」(コア科目、1回生以上)

Ⅰはイギリス文学を中心とする英語圏文学、Ⅱはアメリカ文学のさまざまなジャンル(小説、演劇、詩など)のなかから、代表的な作家、作品について講義します。具体的には、作家の紹介、作品の概略を説明するとともに、その作品の社会的背景、問題点、意義などについて解説し、英文学あるいはアメリカ文学の特性を論じます。

「英語表現概論」(コア科目、1回生以上)

英語による様々な表現文化(演劇、映像、翻訳、ストーリー・テリング、オーラル・ヒストリー、フォークロア、フォークソングなど)のいくつかの分野についての概説の講義です。従来の文献研究のみならず幅広い研究の可能

性について考えます。

「英語学概論」(コア科目、1回生以上)

英語学とはどういうものかを、英語学の各分野を概観しながら把握し、言語学一般との関連性についても考えます。

(2) 2回生以上(2科目を選択、登録必修)

「英文学史Ⅰ・Ⅱ」(コア科目、2回生以上)

イギリスを中心とする文学の歴史的な流れを、各時代の社会背景や文学思潮に留意しながらみていき、主要な作家・作品について論じます。さらにイギリス文化あるいは周辺の旧植民地の文化(アメリカを除く)について考察します。

「米文学史Ⅰ・Ⅱ」(コア科目、2回生以上)

アメリカ文学の歴史的な流れを、各時代の社会背景や文学思潮に留意しながらみていき、主要な作家・作品について論じます。さらにアメリカ文化について考察します。

3. その他の専攻科目

「英書講読」(Intermediateは1回生登録必修、Advancedは2回生以上で必修)

英語文学の作品あるいは英語圏文化、英語学・言語学の英語の原書で、「研究入門」で取り扱われる英語テキストよりも比較的長いものを精読する科目です。英文法の知識を確認しながら、英文読解力を高め、文章の内容の理解を深めます。ある意味で、英米文学研究でもっとも必要な能力を高める科目として重要です。Intermediateは1回生配当で「研究入門」のクラスごとに受講します。Advancedは2回生以上配当で、シラバスを参考に、予備登録で受講するクラスを決定します。IntermediateとAdvancedで合計3科目6単位が必修です。詳細は「履修方法」を確認してください。

「英作文法Ⅰ・Ⅱ」(2回生以上、2科目とも必修)

英語の基本的な文法事項などをおさえた上で、それらを用いて英語の文章を「書く」実技訓練をおこないます。これも英語力を高める点で英米文学専攻では重要な科目ですので、「英作文法Ⅰ」と「英作文法Ⅱ」の2科目とも必修です。英文実習を受講する前に、履修をすませておくことが望ましいでしょう。

「英会話Ⅰ・Ⅱ」(2回生以上)

既存の文法事項を活用して、日常生活で実際に運用できる基本的な会話能力の習得をめざします。ビデオ教材などを利用してリスニング力を高め、その場にふさわしい英語の表現を使えるように練習します。

「英米文学特殊講義・英語表現特殊講義」(2回生以上)

英語文学の主要作家や作品について、あるいは英語圏文化(特に文学の領域に属するもの)について、あるいは英語学の諸問題について専門的に講義します。担当者の専門的な研究分野に基づく、個別的で多岐にわたるテーマについての講義です。

「英文実習」(3回生以上)

「英作文法Ⅰ・Ⅱ」によって修得した英文作成の能力をさらに向上させ、卒業論文を英文で書く能力を育成します。英語論文を読むことにより、論文構成の基本を学び、数編の英文レポートの作成・添削により、英文構成能力をのびます。英語での卒業論文作成予定者は、3回生のうちに履修するのが望ましいでしょう。

「翻訳実習」(3回生以上)

少人数での英文和訳の実践訓練をおこないます。

6 卒業論文（4回生小集団科目）について

卒業論文は4年間の学習の総仕上げであり、その作成に直接に取り組むのは4回生になってからですが、最近では就職活動にかなりの時間を割くことを強いられる場合もあり、できるだけ早くからテーマを絞って準備を始めることが望まれます。

すぐれた論文をめざすには、水準の高さを支える裾野の広がりが必要であり、低回生時から数多い種類の英語のテキストに接し、読解力を高めることが、卒業論文の出来不出来を決定します。遅くとも3回生終了時にはテーマを確定し、文献収集にも取り掛かってください。

卒業論文の指導は「演習Ⅱ」の授業でおこないますが、必要な文献は、基本的なものを自分で揃えと同時に図書館および文学部の文献資料室を積極的に利用してください。なお論文作成の詳細については、以下の《卒業論文作成の手引き》を参照してください。

《卒業論文作成の手引き》

はじめに

以下は英米文学演習Ⅱを履修して卒業論文を作成するための手引きとして、

1. 日程ときまり
2. 論文の体裁について
3. 論文叙述の形式
4. 用紙の使い方・表記の方法
5. 英文論文
6. 禁止事項
7. 付 録

の順で詳細を記し、論文作成への便宜をはかるものです。テーマリサーチ型ゼミナールで卒業論文を作成する場合は、指導教員の指示にしたがってください。

1. 日程ときまり

- (1) 卒業論文の対象となる文学作品は、原作が英語で書かれているものです。日本文学、フランス文学、ドイツ文学等の英語翻訳版は原則として対象となりません。

論文の対象を作家による作品に限定しない場合も、担当教員の指導のもとに相当量の英文テキストを対象にしなければなりません。

また、英語学の卒業論文は、英語を主たる研究対象とするものでなければなりませんので、十分に注意してください。

- (2) 卒業論文題目の提出

毎年所定の期間に文学部事務室に提出します。文学作品を対象とする場合、取り上げる作家名および作品名まで記入すること。それ以外のテキストを対象とする場合は、提出前に必ず指導教員の確認を得ること。詳細については事務室の掲示に従うこと。以後の変更は原則として認めません。

- (3) 審査委員

原則として2名の教員が審査にあたります。うち1名は「演習Ⅱ」の担当教員ですが、他の1名は後期に発表されます。

- (4) 論文の提出

毎年12月の指定された日の午後5時までに指定された場所へ2部提出します。掲示される締め切り日時を確認し厳守すること。特にワープロ、パソコンによる作成の場合、機器やプリンター等の故障によって提出できなかったなどは一切理由にならないので、余裕を持って完成させるよう心がけてください。

(5) 口頭試問

提出された論文について、翌年1月下旬から2月中旬に行われます。その際取り上げた作品の使用原書、および論文のコピーを必ず持参すること。口頭試問は、提出された論文を公正に審査し的確な評価を下すのに不可欠の要件となるものですから、指定された日時に必ず出席すること。試問期間中の海外旅行、ホームステイなどは（語学研修を目的とするものも含めて）認めません。

卒業論文提出までの手続きについては履修要項の「『卒業論文』の提出について」を参照すること。

2. 英米文学専攻「卒業論文」の体裁について

本文の体裁	A4用紙（縦長） 原則としてワープロを使うこと
縦書・横書の指定	横書
文字数に関する指定	1行あたりの文字数：40字 1頁あたりの行数：35行
枚数等に関する指定	9枚以上15枚以下 英文論文の場合、A4用紙で、1頁25行でタイプ、 15枚以上30枚以下
その他の注意	目次を巻頭に付す。注は巻末にまとめて掲げること。つづいて参考文献を巻末に付す。目次、注、参考文献、Summary等は枚数に含めない。
表紙等に関する体裁	フラットファイル（色指定なし）
大きさ	A4
綴じ辺	短辺綴じ（上辺綴じ）
題目シール	指定なし 表紙に題目、専攻名、学生証番号、氏名を任意の方法で記入

3. 論文の形式

(1) 論文題目

12月の提出時に、確定した論文題目を以下の要領で表紙に記します。

例 (和文)

<p>2011年度卒業論文</p> <p><u>Great Expectations</u> 研究 —Pip の精神的成長について</p> <p>英米文学専攻 学生証番号 氏名</p>	<p>2011年度卒業論文</p> <p>『大いなる遺産』研究 —ピップの精神的成長について</p> <p>英米文学専攻 学生証番号 氏名</p>
--	---

例 (英文)

<p>Functions of the Fool in <u>King Lear</u></p> <hr/> <p>A Thesis</p> <p>Presented to</p> <p>The Faculty of the Department of English and American Literature Ritsumeikan University</p> <hr/> <p>In Partial Fulfillment of the Requirements for the Degree of Bachelor of Arts</p> <hr/> <p>by</p> <p>Megumi Amano 1605××××××× - × December 2011</p>
--

(2) 目次

章分けして巻頭に目次をつけます。原則として各章にタイトルをつけます。

(3) 論文の構成

論文の構成は多様です。付録に紹介されている文献や、『立命館文学』、『立命館英米文学』、その他国内外の学術雑誌に収められている論文を日ごろ読んで、参考にするのがよいでしょう。

論題の提示、その展開、そして結論、少なくともこれら3つの部分は、どのような論文にも含まれているといえます。明確な問題意識に根ざし、事実に基づいた論証がなされるべきです。

(4) 引用と注

和文論文においては、英文の書物（作品・研究書）からの引用は日本語に自訳して本文に入れ、原文を注に示します。ただし英語表現の細かい部分を論じようとするときなどは、原文のまま本文中に引用する場合もあるでしょう。その時は自訳を注に記します。既訳を参照した場合はその旨注に明記してください。

注は番号順に巻末に付します。注には引用の出所（著者名、書名、出版地、出版社、出版年、頁）を明記してください。

劇作品からの引用の出所は何幕何場とし、詩劇であれば行数も示します。詩作品からの引用の場合は行数またはスタンザ数とスタンザ内での行数を示します。長詩では巻・編名などと共に行数を示します（すべて算用数字を使用）。

他人の説を引用あるいは参照した時は、下の例のように注によって出所を明示しなければなりません。本文のその箇所に注番号をつけ、出所を巻末注に明記します。

(5) 参考文献表

巻末に参考文献表をつけます。そこには、扱った作品名と使用した版を記し、ついで引用した参考文献を列挙します。引用はしていないが、考え方などを全体として学んだ書物があれば、その旨を明記します。

例)

使用テキスト

Woolf, Virginia. Mrs. Dalloway. London: Hogarth, 1925.

引用文献

Daiches, David. Virginia Woolf. New York: New Directions, 1942.

Habegger, Alfred. "The Fatherless Heroine and the Filial Son: Deep Background for The Portrait of a Lady," New Essays on The Portrait of a Lady. Ed. Joel Porte. The American Novel. Cambridge: Cambridge University Press, 1990. 49-93.

永原誠『マーク・トウェインを読む』山口書店、1992年。

次の書物からは引用はしなかったが、小説全般の読み方について学ぶところが多かった。

Forster, E. M. Aspects of the Novel. 1927. New York : Penguin, 1962.

*参考文献表では、著者名はfamily nameを先に書き、著者名をアルファベット順に並べます。また各項目で2行目までかかる場合は、上記の Habegger, Alfred の項目の例（2行目に空白部分）にあるように、2行目より半角5文字右によせて書きます。

*詳細は最新の『MLA英語論文の手引き』（北星堂書店）などの標準的スタイルマニュアルを参照し、ゼミ担当者の指導に従ってください。

*英語学での引用・注・参考文献(4)(5)の表示は、文学の場合と異なります。詳しくは演習Ⅰ・Ⅱで説明します。

(6) 和文論文の場合、Summary（英文による要約）を提出する。

（提出期限、提出方法等は、指導教員の指示に従うこと）

4. 用紙の使い方・表記の方法

- (1) 書き出しおよび改行の際は、必ず最初の1字分をあけます。
- (2) 行頭に符号やくりかえし記号（々）を据えてはいけません。文の終止符号が行末にきた場合は行末の文字と一緒に書き込みます。
- (3) 英文は半角とします。
- (4) 行末における英字の記入については、音節の区切り（辞書で確かめること）に注意してください。
- (5) 長い引用（3行以上）はその前後に空白の行を設け、本文より全体を1字分ずらせて書いてください。
- (6) 注番号は、最後の文字の右上に書きます。
- (7) 引用の際、中略するとき、和文では「……」または「—（中略）—」記号を、英文では“…”を用います。
- (8) 新しい章は4行あけて始めます。

5. 英文論文

英米文学専攻の学生として、卒業論文を英語で書くことは大いに望ましいことです。そのためには4回生までに英文論文をできるだけ多く読み、「英文実習」を受講するなどして、正しい英文を書く力を十分つけておくことが前提となります。英文で書く場合でも、対象とする作品を精読して、正しく理解していることが肝要であるのは和文論文の全く同じです。書くことに自信をもっていても、下書きおよび清書に十分な時間の余裕を置くことが絶対に必要な条件となります。

なお、英文論文には、本文の書き方について和文の論文の場合とはちがった形式や約束があるので、市販の「英文論文の書き方」類（付録参照）を参考にすると同時に、「演習 II」担当教員に早くから助言、指導をもとめてください。

6. 禁止事項

卒業論文を作成する際には、扱った作品以外に、様々な研究書や批評などの資料を参照することも、自説を論じるには重要です。ただし、その際には出所を必ず注などで明記しなければなりません。そうしないで参照した場合は、たとえそれが書物や雑誌からであれ、インターネットからであれ、盗用であり、けっして許されることではありません。参考にした資料は、前述の 2. 論文叙述の形式の (4) 引用と注、そして (5) 参考文献表の例にならって、両方でその出所を明記してください。

7. 付 録

一般的参考文献

作品・作家・文学史を調べるに当たり、常に不可欠のものは、辞書および一般的参考文献です。どういう場合にどのような書物を見ればよいかという基礎的な知識は、簡単なようで実はなかなか身につけません。以下辞書を中心に、専攻および学部備えてあるもののうちから、一般的なものをとりあげて紹介します。なお、個別の作家や作品に関する専門書は、学部の文献資料室にあるので利用してください。

《注意》

以下にあげる書物の末尾に（文献）と記されているものは文献資料室に、（共）と記されているものは共同研究室にあることを示します。（両）は上記2室にあるの意味です。無印のものは、必要に応じて自分で備えてください。

なお、著名なものがほとんどであるので、編者名、出版社名を省くなど、表記法は略式にしています。

① 辞 書

(1) 一般的なもの

- Pocket Oxford Dictionary* (共)
Concise Oxford Dictionary (共)
Shorter Oxford English Dictionary (両)
New English Dictionary 12 vols. and Supplement (共)
Compact Edition of Oxford English Dictionary, 2 vols. (共)
Oxford English Dictionary, 2nd. Edition (文献)
Oxford Illustrated Dictionary (両)
American College Dictionary (両)
Webster's New World Dictionary (共)
Webster's Third New International Dictionary (両)
Webster's New Twentieth Century Dictionary (共)
Dictionary of American English, 4 vols. (文献)
Longman Dictionary of Contemporary English (両)
Idiomatic and Syntactic English Dictionary (共)
Shogakukan Random House English-Japanese Dictionary (共)
Kenkyusha's New English-Japanese Dictionary (両)
Everyman's Encyclopaedia, 12 vols. (共)
Encyclopaedia Britannica, 30 vols. (共)
Encyclopaedia Americana, 30 vols. (共)
I-See-All: Picture Encyclopaedia, 5 vols. (共)

(2) 英文を書くためのもの

- Kenkyusha's New Japanese-English Dictionary* (共)
Kenkyusha's New Dictionary of English Collocations (両)
Basic English Writers' Japanese-English Wordbook (共)

(3) 方言・俗語

- English Dialect Dictionary, 6 vols.* (文献)
Dictionary of American Slang (両)
Dictionary of Americanisms, 2 vols. (文献)
The American Thesaurus of Slang (文献)

(4) 諺・引用・故事

- Oxford Dictionary of English Proverbs* (共)
Dictionary of American Proverbs and Proverbial Phrases (共)
Kenkyusha's Dictionary of English Quotations (共)
Brewer's Dictionary of Phrase and Fable (共)
英米故事伝説事典 (共)

(5) 作家・作品・固有名詞

- Concise Universal Biography* (文献)
Oxford Companion to English Literature (両)
Oxford Companion to American Literature (両)
The Reader's Encyclopaedia of English American Literature (文献)
Twentieth Century Authors (共)
Concise Encyclopaedia of English and American Poets and Poetry (共)
Dictionary of National Biography, 2 vols. (文献)
Century Encyclopaedia of Names, 3 vols. (共)
Webster's Dictionary of Proper Names (共)

(6) その他

Oxford Classical Dictionary (共)
Oxford Companion to Classical Literature (文献)
Kenkyusha's Dictionary of English Linguistics and Philology (共)
Seibido's Dictionary of English Linguistics
 キリスト教大事典 (共)
 英文学風物誌 (文献)
 英語歳時記 5巻 (共)
 英文法シリーズ 25冊 (共)
 英語教授法事典 (共)
 ギリシャ、ラテン、独、仏、伊、露、各語の辞典 (共)
 シェイクスピアはじめ各詩人の Concordance (文献)

- (7) 永嶋大典『英米の辞書』(研究社)、加島祥造『英語の辞書の話』(講談社)、佐藤弘『英語辞書の知識』(八潮出版)などを読み、辞書の種類や特徴を学ぶことによって、辞書利用の効果が高まるであろう。

② 参 考 書

研究社 英米文学史講座 13巻 (文献)
 大修館 講座英米文学史 6巻 (文献)
 研究社 20世紀英米文学案内 19冊 (両)
 研究社 英文学ハンドブック「作家と作品」 70冊
 泰文堂 アメリカ小説研究 (続刊中)
 The Critical Heritage (文献)
 Twayne's United States Authors Series (文献)
 Twayne's English Authors Series (文献)
 Twentieth Century Interpretations (文献)
 Twentieth Century Views (文献)
 Writers and Their Work (文献)
 大塚高信・中島文雄(編). 1982.『新英語学辞典』研究社
 荒木一雄・安井稔(編). 1992.『現代英文法辞典』三省堂
 安井稔(編). 1987.『例解 現代英文法事典』大修館
 小西友七(編). 1980.『英語基本動詞辞典』研究社
 ——. 1987.『英語基本形容詞・副詞辞典』研究社
 『英語学大系』(全15巻)大修館
 『新英文法選書』(全12巻)
 『現代の英文法』(全12巻)研究社
 Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.
 Quirk, R. and S. Greenbaum. 1973. *A University Grammar of English*. Longman.
 『英語青年』研究社
 『言語』大修館
 『英語教育』大修館
 『日本語学』明治書院

③ 雑誌掲載論文の検索

- (1) 本専攻には和・洋合わせて、148種の学術雑誌が所蔵されています。文献資料室にあるので、卒論作成に役立つ論文類をコピーするなど、積極的に活用してください。
- (2) 自分の卒論のテーマの研究に役立つ論文を検索するには、大学図書館にそのための案内や手引き類が常備されているので、それらを入手して参考してください。またオンラインでの論文・記事検索、E-journal検索も可能です。「演習 II」担当教員と相談して図書館に申し込めば、ゼミ単位でガイダンスを受けることも出来ます。

(3) 専攻、文学部、あるいは大学図書館の所蔵していない国内外の雑誌に載っている論文のコピーは、大学図書館一階のレファレンス・カウンターに申し込めば入手可能です。

④ 論文の書き方の手引き

内多 毅『英文学卒業論文ガイド』（英潮社）

米国現代語学文学会監修 原田敬一訳『MLA英語論文の手引』（北星堂）

⑤ その他の資料、設備

(1) 英米文学テープ・ライブラリー（文献、または図書館1階A. V.ルーム）

(2) パソコン及びワープロ

以上の文献のうち、文献資料室保管のものを利用する時は、在室TAの指示に従ってください。共同研究室を利用する場合は、規定にしたがってください。

テーマリサーチ型ゼミナールにおける卒業論文（卒論形式・非卒論形式）の提出について

テーマリサーチ型ゼミナールでは、従来のような卒業論文の提出（卒論形式）もありますが、クラスによっては、卒論形式に代えて、共同で制作物（成果物）を仕上げて提出する「非卒論形式」もあります。必ずクラス内で担当教員に、いずれかの形式なのかを確認してから作成してください。

◆体裁について

卒論形式で制作の場合	文書体裁	字数：12,000字以上20,000字以下 英文の場合：65ストローク×25行、A4用紙15枚以上30枚以下 ファイル形式・書式・用紙の大きさなど：クラス担当者の指示に従うこと。 必ず 2部 提出すること。添付資料がある場合は、添付資料も同様に必ず 2部 提出すること。
	表紙等に関する体裁	題目、学生証番号、専攻、プログラム、氏名を必ず記載すること。
	その他の注意	学生本人のみの執筆による単著であること。共同執筆の類はこれに該当しない。
非卒論形式で制作の場合	文書・表紙体裁	体裁についてはクラス担当者の指示に従うこと。 必ず 2部 提出すること。添付資料がある場合は、添付資料も同様に必ず 2部 提出すること。
	その他の注意	1. 制作物（成果物）には題目、学生証番号、専攻・プログラム、氏名を必ず記載するか添付すること。また、審査教員シールを貼付すること（貼付箇所は自由）。 2. 制作物（成果物）とともに、4,000字以上の個人レポートを提出すること。 ※制作物（成果物）と個人レポートの両方を提出して初めて「卒論提出」となる。 ※個人レポートの表紙裏にも審査教員シールを貼付すること。 3. 口頭試問に相当するものとして、「卒業制作発表会（仮称）」を実施することがある。実施日については、担当教員の指示に従うこと。

◆上記の他の提出に関する諸注意は基本的に履修要項の「『卒業論文』の提出について」に従ってください。

7 研究入門（1回生小集団科目）について

（1）研究入門および自主ゼミについて

（a）研究入門について

- ・研究入門は、1回生時の専攻学習の中軸となる小集団授業です。英語で書かれた基礎的なテキストを、どう読み、どう分析するかを学び、また各分野に関する基礎知識の修得を通して、英語文学・文化あるいは英語学への導入をはかります。何よりも学生の自主的学習を尊重するため、個人あるいはグループによる発表・討論を主として進め、初歩的な研究レポートの書き方も指導します。
- ・上に述べたことは、あくまで最大公約数的な一般論であって、担当教員やその専門分野などによって実際の研究入門の内容はある程度異なりますが、これはむしろ自然なことと言えます。重要なことは、将来どのような分野を専攻するにせよ、すべての基礎となる英語の学力をしっかりと身につけることです。英語の学力にもとづいていなければ、何をやってもそれは「砂の上に家を建てる」(Matt. 7:26) ようなものです。新入生の諸君は、特にこのことに留意してください。
- ・2004年度から1回生時に「リテラシー入門」科目が設置されています。
この科目では、「教わったことを理解する」「自ら調べる」「自分の頭で考える」「これらを表現し、読み手に伝える」技術の修得を目指しますが、研究入門クラスでも英語文学や英語学に関するレポートを書く訓練をします。これは文学部教学の到達点である卒業論文の基礎となるものです。

（b）自主ゼミについて

自主ゼミは専門小集団授業を補うものであり、学生の自主的で、集団的な学習の場として重要な意義をもっています。例えば、グループで（7）で述べる共同研究室を利用して、共同研究、読書会、研究発表などを行うことができます。自主ゼミの活動は、施設貸与や資料作成費用の補助などを受けることができます。詳細は履修要項で確認してください。

（c）具体的な研究発表、自主ゼミ活動等については担当教員に相談すること。

（2）レジュメ・資料の作り方

- ・ここでいう「レジュメ」（「ハンドアウト」という言い方をすることもある）とは、研究発表などの内容（概要）をまとめたもの、という意味です。問題となる箇所を引用であることを明記して原作や研究書から引用することもあります。
- ・レジュメの内容・形式は、英米文学・文化と英語学とは大きく異なります。同じ文学でもジャンル（詩、小説、戯曲など）によっても異なりますし、もちろんテーマ（発表内容）によっても異なります。
- ・以下にレジュメに含まれる項目の例を、（a）詩の場合、（b）小説の場合、（c）戯曲の場合に分けて示します。いずれの場合においても、（1）発表のテーマ（論点、課題等）をはっきりさせること、（2）実証的、客観的に論証すること、（3）結論をはっきりさせることが重要です。このことは次に述べるレポート・小論文にもそのままあてはまります。なお、テーマ（論点、課題等）は担当教員から指定される場合もあるし、自分で見つけなければならない場合もあります。

（a）詩の場合

- （1）発表のテーマ（課題）
- （2）詩的技巧（構成、表現、ことば、リズム等）、作品（詩）のテーマの解説、作者と時代背景、批評史など
- （3）結論

（b）小説の場合

- （1）発表のテーマ（課題）
- （2）粗筋、構成、表現、作品（小説）のテーマの解説、作者と時代背景、批評史など
- （3）結論

(c) 戯曲の場合

- (1) 発表のテーマ (課題)
- (2) 内容、構成、作品 (戯曲) のテーマの解説、表現、劇的技巧、作者と時代背景、上演史、批評史など
- (3) 結論

(d) 英語学の場合

- (1) 発表のテーマ (課題)
- (2) テーマ、資料 (例文など)、関連文献、他の構文との比較、日本語を含めた他の言語との比較など
- (3) 結論

・以上の項目はあくまで一つの例にすぎません。

実際には担当教員と相談すること。

・次に、小説で、一つの章を発表対象とした場合のレジユメの例を示しますが、これはあくまで、口頭で発表することを前提とした一つの例にすぎません。(したがって、この見本を見ただけでは内容は理解できません。) 担当教員とよく相談し、作成してください。

<レジユメ (ハンドアウト) 見本>

[番号、名前] 1605100000-0 立命 花子

[章] E. M. Forster, *Howards End*, Chapter I

[章のタイトル] 章の内容 (あらすじ) を 1～3 行程度で要約する。

Helen から Margaret への 3 通の手紙。

Helen と Paul が恋におちる。

[梗概] 章の内容 (あらすじ)

(19-20) Helen's first letter

(19) Howards End の描写

a very big wych-elm ⇒重要な (象徴的な) 役割をはたすことになる。

(20) Mrs Wilcox, Charles, Henry, Evie の描写

Mrs Wilcox だけがくしゃみをしない (hay fever にかかっていない)

⇒彼女だけが the Wilcoxes のなかで例外的人物。

彼女だけが草、花、田園、自然と結びつけられている。

(20-21) Helen's second letter

Helen は the Schlegels とは異質な the Wilcoxes に魅力を感じている。

Helen は women's suffrage, equality に関して Henry にやり込められてしまうが、むしろそのことを楽しんでいる。

(21) Helen's third letter

Paul and I are in love.

[コメント] 問題点、注意すべき点、気づいたこと等。

・物語は *Howards End* の描写ではじまる。

⇒この建物の重要性を示唆している。

・Paul and I are in love. ⇒plot (story, action) の始まり。

⇒Schlegel 的世界 (価値観) と Wilcox 的世界 (価値観) の衝突、

結びつきがこの小説のテーマ →Only connect!

[今後の検討課題、問題点等]

・*Howards End*, a wych-elm の象徴性に注目すること。

[参考文献] 文献 (研究書等) を利用した場合は、参考文献として明記すること。

近藤いね子 (編) 『フォースター』 研究社, 1967.

Trilling, Lionel. *E. M. Forster*. Hogarth, 1944.

(3) レポート・論文の書き方

- ・ここでいう「レポート」とは、「小論文」(paper あるいは term paper) のことです。
- ・英米文学関係のレポート・論文で特に注意しなければならないことは、漠然と作品のあら筋や感想を書いただけではレポート・論文にはならないということです。さきに述べたように、短くても論文である以上、テーマ(論題、論点)があり、実証的、客観的に論証がなされ、結論がなければなりません。
- ・内容と同時に書式にも注意しなければなりません。
いくら内容がよくても、論文には論文の書式があり、それにしたがっていないければ論文とは言えません。以下に、ごく基本的な論文の書式を記します。

(a) 日本語(原稿用紙)の場合(ワープロもこれに準じる。)

- ・段落のはじめは1マスあける。
- ・句読点、かっこ類は原則として1マスにする。ダッシュは2マスにする。
- ・句読点、かっこ類が行のはじめにくるときは、前行の最後のマス目に入れる。
- ・英語は1マスに2文字が基準である。(読みやすいようにすること。)
- ・書名は『 』で、詩、短編小説、論文などの題は「 」でくくる。
- ・自分の文と引用文を区別し、出典を明記すること。
短い引用文(3行以下)は文中に入れる。日本語の場合は「 」でくくり、英語の場合は“ ”でくくる。
長い引用文(4行以上)の場合は、引用文を独立させる。
直接引用はしないが参考書を参照した場合でも、出典を明記すること。

(b) 英語の場合

- ・パラグラフのはじめは通例5文字分スペースをあける(indentする)。日本語のように1文字下げるのではない。
- ・単語を2行に分ける場合は、単語を切っていい場所(分節)に注意すること。辞書で確認すること。
- ・書名はイタリック(斜字体)で書くかアンダーラインを引く。
詩、短編小説、論文などの題は“ ”でくくる。
- ・punctuation marks と space の関係に注意すること。
Comma (,), Colon (:) のあと → 1スペースあける。
ただし数字の単位の後にはスペースをあけない。
Period (文の終わり) (.), Exclamation Mark (!),
Interrogation Mark (?) のあと → 原則として2スペースあける。
- ・自分の文と引用文を区別し、出典を明記すること。
短い引用文(3行以下)は文中に入れ、引用文を“ ”でくくる。
長い引用文(4行以上)の場合は、引用文を独立させる。
参照した場合も、出典を明記すること。
- ・論文の書式の詳細(引用のしかた、注のつけ方、参考文献の書き方など)については、(4)(a)に記載されている文献を参考にしたり、担当教員に相談すること。『立命館英米文学』、『学生論集』、学会誌、あるいは研究書などに掲載された論文を数多く読むことは有益です。内容においても形式においても、論文とはどういうものかが分かるはずです。手引き書としては『MLA英語論文の手引き』(北星堂書店)を参照してください。
なお、卒業論文の書式については、「[6](#)卒業論文(4回生小集団科目)について」の項を参照のこと。

(4) 参考書 (入門用)

(a) レポート・論文の書き方

「レポート・論文の書き方」の類の本はきわめて多数あります。ここでは英米文学関係と英語論文の書式・書き方に限って紹介します。

- ・論文 (特に英米文学関係) の書式・書き方
 - 鳥居次好・宇山直亮『英語論文とレポートの書き方』(英潮社)
 - 渡部昇一 (他)『論文・レポートの書き方』(スタンダード英語講座 8) (大修館書店)
 - 榎木伸明『卒論を書こう』(三修社)
 - 小野俊太郎『レポート・卒論の攻略ガイドブック [英米文学編]』(松柏社)
- ・英語論文の書式・書き方
 - J. ジバルディ他編著, 原田敬一訳編『MLA英語論文の手引き』(北星堂)
 - トウラビアン著, 高橋作太郎訳『英語論文の書き方』(研究社)
 - アンドルー・アーマー他著『アカデミックライティング応用編』(慶応義塾大学出版会)
 - ジョン・スウェイルズ/クリスティン・フィーク著 御手洗 靖 (訳)
 - 『効果的な英語論文を書く』(大修館書店)
 - 樋口昌幸『英語論文表現事典』(北星堂)
 - 崎村耕二『英語論文でよく使う表現』(創元社)
 - 迫村純男 (訳)『英語論文に使う表現文例集』(ナツメ社)
 - 加藤恭子、ヴェネッサ・ハーディ『英語小論文の書き方』(講談社現代新書)

(b) 辞典

- ・英英辞典
 - Oxford English Dictionary*
 - Concise Oxford Dictionary of Current English*
 - Webster's Third New International Dictionary*
 - Longman Dictionary of Contemporary English*
 - Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*
 - 『コウビルド英英辞典』(桐原書店)
- ・英和・和英辞典
 - 『研究社新英和大辞典』(研究社)
 - 『小学館ランダムハウス英和大辞典』(小学館)
 - 『リーダーズ英和辞典』(研究社)
 - 『ジーニアス英和辞典』(大修館書店)
 - 『プログレッシブ英和中辞典』(小学館)
 - 『研究社新和英大辞典』(研究社)
- ・その他の辞典・事典
 - 『新編英和活用大辞典』(研究社)
 - 『新クラウン英語熟語辞典』(三省堂)
 - 『固有名詞英語発音辞典』(三省堂)
 - 『英語名句事典』(大修館書店)

※辞書はすべて最新の版 (edition)

※CD-ROM版、電子ブック、電子辞書があるものもある。

(c) その他

- 『英文科学生必携ハンドブック』(研究社)
『大学生の英語学習ハンドブック』(研究社)

(5) 参考書(専門的)

(a) 英米文学史

- 川崎寿彦 『イギリス文学史』(成美堂)
斎藤勇 『イギリス文学史』改訂増補第5版(研究社)
サン普森, 平井正穂監訳 『ケンブリッジ版イギリス文学史』全8巻(研究社)
エモリー・エリオット編 『コロンビア米文学史』(山口書店)
福原麟太郎・西川正身監修 『英米文学史講座』全12巻, 別冊1(研究社)
加納秀夫他編 『講座英米文学史』全12巻(大修館書店)
亀井俊介 『アメリカ文学史講義』全3巻(南雲堂)
大橋健三郎他編 『シンポジウム英米文学』全8巻(学生社)

(b) 辞典・事典

- 斎藤勇他編 『英米文学辞典』第3版(研究社)
The Oxford Companion to English Literature
The Oxford Companion to American Literature
Benet's Reader's Encyclopedia of American Literature

(c) 作家・作品別シリーズ, その他

- 「20世紀英米文学案内」(研究社)
「講座イギリス文学作品論」(英潮社)
「英文学ハンドブック 作家と作品」(研究社)
「アメリカ古典文庫」全23巻(研究社)
日本イギリス文学・文化研究所編 『イギリス文学作品ガイド』(荒地出版社)
日本アメリカ文学・文化研究所編 『アメリカ文学作品ガイド』(荒地出版社)
小野寺健(他) 『英米文学で何を読むか』(研究社)

(d) 文学理論

- ラマーン・セルデン著, 栗原 裕(訳) 『ガイドブック 現代文学理論』(大修館書店)
岡本康正(他編) 『現代の批評理論』1, 2, 3(研究社出版)
川口喬一 『小説の解釈戦略-『荒が丘』を読む』(福武書店)
テリー・イーグルトン 『文学とは何か』(岩波書店)
E・ショーウォーター 『新フェミニズム批評』(岩波書店)
『女性自身の文学』(みすず書房)
ジョナサン・カラー 『文学理論』(岩波書店)

(e) 文学理論・批評用語辞典

- 川口喬一, 岡本康正(編) 『最新文学批評用語辞典』(研究社)
ジョゼフ・チルダーズ(他編) 杉野健太郎(他訳)
『コロンビア大学現代文学・文化批評用語辞典』(松柏社)
福原麟太郎・吉田正俊編 『文学要語辞典』改訂増補版(研究社)
Hawthorn, Jeremy. *A Glossary of Contemporary Literary Theory*. (Arnold)

(f) 英語学

- The Oxford Companion to Language*

International Encyclopedia of Linguistics 1-4

- 「日英語対照研究シリーズ」全7巻（くろしお出版）
- 「日英語対照による英語学演習シリーズ」全8巻（くろしお出版）
- 「日英語比較選書」全10巻（研究社）
- 「現代の英語学シリーズ」全10巻（開拓社）
- 「英語学コース」全4巻（大修館書店）
- 「英語学モノグラフシリーズ」全21巻（研究社）

(6) 雑誌

- 『英語青年』（研究社）
- 『英語教育』（大修館書店）
- 『新英語教育』（三友社出版）
- 『現代英語教育』（研究社）
- 『英語展望』（英語教育協議会）
- 『時事英語研究』（研究社）
- 『言語』（大修館書店）
- 『立命館英米文学』（立命館英米文学会）
- Active English*（アルク）
- English Journal*（アルク）
- English Network*（アルク）

- ・（4）～（6）の文献はあくまで一般的なものです。詳細は担当者に相談してください。

(7) 共同研究室の利用について

英米文学専攻共同研究室の利用にあたっては、以下の点に留意してください。

- ・共同研究室は、英米文学専攻の教員・院生・学生が専攻学問の自主的共同研究と学習をおこなうための施設であって、辞書類の利用、サブゼミ活動、小グループ読書会などのほか、院生の研究報告、卒業論文の試問、演習にも使用される。利用にあたっては、研究施設にふさわしい節度を守ること。
- ・共同研究室の鍵は事務室で学生証と引き換えに受け取り、利用後ただちに事務室に返還すること。鍵を持ち歩くことや又貸しは認めない。
- ・共同研究室備付けの図書は、複写する場合を除き、禁帯出とする。複写の際も終わり次第直ちにもとにもどすこと。
- ・掲示板以外の場所に張紙をしないなど、研究室内外の美化につとめること。また研究室内での放談、飲食など、研究・学習の妨げとなる行為をつつしむこと。
- ・共同研究室のパソコン、プリンターは教員および大学院生用なので使用しないこと。
- ・閉室にあたっては、（1）紙屑・ゴミ類の処理、机・椅子の整頓（2）電源（特にエアコンのスイッチ）を切ること（3）窓および出入り口の施錠、の3点を確認し、責任をもって処理すること。
- ・研究室内は禁煙。
- ・研究室内に掲示してある「学部生への注意」にしたがうこと。

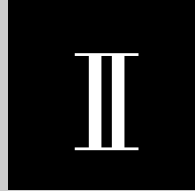
(8) TAについて

TA（Teaching Assistant）にはさまざまな業務内容がありますが、学部学生に関係するものとしては以下のものがあります。

- ①授業の補助
（特にTAはリテラシー入門で提出するレポートを回収し、添削することになっています。）
- ②学部学生の教学の補助
- ③学部学生の自主的学習活動への指導・援助

④卒業論文作成の助言と補助

- ・ T Aは主に大学院生です。
- ・ ③、④の業務に従事する T Aは清心館 3 階の英米文学専攻共同研究室（共研）に決められた時間に勤務しています。（勤務時間割表参照）
- ・ 学習に関することをはじめ、何か疑問がありましたら遠慮なく質問してください。



科目一覧と履修方法

1 科目一覧

英米文学専攻全回生

	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生
概 論	英米文学概論 I・II (各2) 英語表現概論 (2) 英語学概論 (2)			
文 学 史		英文学史 I・II (各2) 米文学史 I・II (各2)		
講 読	*英書講読 (Intermediate) (2)	*#英書講読 (Advanced) (2)		
特 殊 講 義		#英米文学特殊講義 I~VIII (各2) #英語表現特殊講義 I・II (各2)		
そ の 他		*英会話 I・II (各2) *英作文法 I・II (各2)	*#英文実習 (2) *翻訳実習 (2)	
小 集 団	*英米文学研究入門(4): 通年	*英米文学基礎講読(4): 通年	英米文学演習 I (4): 通年	英米文学演習 II (4): 通年 *卒業論文(4): 通年

1. 科目名のカッコ内数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、英米文学専攻の学生のみが受講できます。
3. #のついた科目は、重複受講ができます。
4. 下線のついた科目は、その回生でしか受講できません。

2 履修方法

必修科目 (卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目と単位数)

①	英書講読 (Intermediate) (1回生のみ)	1 科目 2 単位必修 ※
	英書講読 (Advanced) (2回生以上)	2 科目 4 単位必修
②	英作文法 I・II (2回生以上)	2 科目 4 単位必修
③	英米文学演習 II (4回生以上)	4 単位選択必修
	ゼミナール II (テーマリサーチ) (4回生以上)	
④	卒業論文 (4回生以上)	4 単位必修

※Intermediateを未修得の場合、Advancedを3科目6単位修得すること。

登録必修科目 (必ず登録・受講しなければならない科目と単位数)

⑤	英米文学概論 I・II (1回生以上)	2 科目 4 単位選択登録必修
	英語表現概論 (1回生以上)	
	英語学概論 (1回生以上)	
⑥	英文学史 I・II (2回生以上)	2 科目 4 単位選択登録必修
	米文学史 I・II (2回生以上)	
⑦	英米文学研究入門 (1回生のみ)	1 科目 4 単位登録必修
⑧	英米文学基礎講読 (2回生のみ)	1 科目 4 単位登録必修
⑨	英米文学演習 I (3回生のみ)	1 科目 4 単位選択登録必修
	ゼミナール I (テーマリサーチ) (3回生のみ)	

専攻科目以外の登録必修科目

- ・リテラシー入門 (教養科目: 2 単位) 1 回生前期
- ・外国文化講読 (英語) (人文科学総合講座: 4 単位) 3 回生通年 ※2008年度以前入学生のみ

※社会人学生のみなさんは、③④以外の必修科目、および登録必修科目はありません。ただし、条件の許す限り、上記の必修・登録必修科目は履修してください。

受講登録方法は履修要項を参照すること。

